

ふれあい つながり かわら版

今できる小中一貫教育(3)

目指す子供の姿を見つめ直す

本年度は、新型コロナウイルスの影響により、各ブロックで取り組んできた小中一貫教育の取組を進めることが難しい。だからこそ、「見つめ直し」の一年にしていたきたいと第17号でお伝えしました。

各ブロックの目指す子供像の実現におけた取組を見つめ直す―その意義も含めて検証する―ことは、まさに今こそできる小中一貫教育です。

近年、「検証方法の明確化と取組の改善」を小中一貫教育の重点取組に設定し、各ブロックで様々な工夫していただいているところですが、本年度は、より深く考える機会になると思います。

ブロックの取組を見つめ直すに当たり、その取組の結果が、目指している子供の姿につながっているのかを、正しく見取ることがとても重要になります。

しかし、「意欲的に学習する」「思いやりを持って協力できる」などの、比較的抽象度の高い表現で示された目指す子供像の実現度合について、客観的に測ることは難しいものです。どのような姿が見られれば「意欲的に学習する子供」なのか、「思いやりを持った子供」はどのように行動するのか。目指す子供像の評価規準と指標を、各ブロックで明確にしておく必要があります。

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120



今号では、教師の直接的な見取り以外の方法として、児童生徒自身の声を、その指標とする

姫路市児童生徒意識調査の活用について

毎年11月末頃に、小学4年生から中学3年生の全児童生徒に対して、「姫路市児童生徒意識調査」を行っています。この調査は「教育委員会及び各学校の様々な取組を検証し、次年度以降の改善に努め、本市の教育力を高めること」を目的とし、各学校の先生方の協力により実施しています。

調査結果は、経年変化も確認でき、学校の取組の検証等にも活用してもらえらるものと考えています。特に、マークシート調査用紙の最後の6問は空欄にしてあり、学校独自調査項目として、各校で自由に質問を設定できるようになっています。

ただ、以前から経年の調査項目として活用いただいている学校もありますが、全体としては、まだ、利用率は低いようです。

一方で、この質問項目をブロックで共有し、効果的に使おうとしている事例があります。

灘中学校ブロックでは、総合的な学習の時間や特別活動などを核に、小中一貫した系統的な地域学習「灘学」のカリキュラム開発を進めています。

今号では、教師の直接的な見取り以外の方法として、児童生徒自身の声を、その指標とする

■灘中ブロック小中一貫教育目標
豊かな心・確かな学力・健やかな体・灘を愛する心

■「灘学」のねらい(概要)
灘を知り、灘を好きになり、灘の魅力を発信できる児童生徒を育成する。進学により一時地元を離れても、やがては「好きな灘」に戻り、灘校区の未来の創り手となる人を育てる。地域に誇りを持つことは、自分のルーツに誇りを持つことであり、自分自身に誇りを持つ、自尊感情の涵養につながるものである。

■学校独自調査項目
・自分の校区が好きですか。
・自分の校区を誇りに思いますか。
・自分の校区の魅力を他の人に伝えたいと思いますか。
・将来、この校区に住みたいと思いますか。

「灘学」は、灘校区に対する愛着と誇りを持つ児童生徒を育成することをねらいとしています。その指標として、児童生徒自身の「校区に対する思い」を聞き取る調査項目をブロックの一中4小で共有し、それぞれ姫路市児童生徒意識調査の学校独自調査項目に設定して調査しています。

「灘学」の取組は、まだ始まったばかりですが、最初にねらいとその指標を明確に定め、ブロックでしっかりと共有してから、具体的な学習活動を考えるという手順は、PDCAサイクルの確立した、効果的な取組につながるものです。



活動ありきで進めている取組には、当初のねらいから外れ、形骸化したまま続いていることが、しばしばあります。だからこそ、ねらいにつながる児童生徒の直接的な声を指標とすることで、適切に検証・改善しつつ、効果的な取組を続けることができます。また、このねらい(めあて)と指標(振り返り)を児童生徒自身と共有すれば、児童生徒の活動が、より主体的なものへと深まっていくことも期待できます。

姫路市児童生徒意識調査の活用を、是非ご検討ください。